

も安価であり、初期投資の低減が可能

(参考 URL) <http://www.jfe-steel.co.jp/release/2010/12/101207.html>

(*) Gullfaks Rimfaksdal Project :

北海北部、ノルウェーのベルゲン沖に位置するGullfaks Fieldにおいて、新規ガス井から既存の処理設備までを結ぶ、2本で合計約9キロメートルのパイプライン。

(**) リール(Reel)工法：

パイプを陸上で事前に溶接し、特殊な敷設船のリールに巻き付けたパイプを海上で繰り出し、敷設する工法。

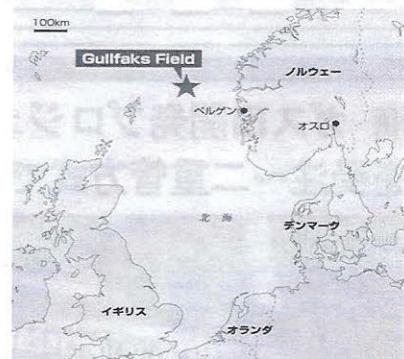
【Statoil社の概要】

37カ国で操業する国際エネルギー企業。

40年の長きに渡りノルウェー沖大陸棚で石油・ガス生産を継続しつつ、多様な技術の応用と革新的なビジネスソリューションの創造を以って世界のエネルギー需要に応えている。

スタパンガー(ノルウェー)に本社を構え、全世界でおよそ2万5千人を雇用している。

ニューヨーク証券取引所・オスロ証券取引所に上場。



【地図】

半導体ウェハカップ式超小型めっき実験装置を販売開始

TANAKAホールディングス株式会社

田中貴金属グループのめっき事業を展開する日本エレクトロプレイティング・エンジニアース株式会社が、量産機同様の皮膜を実現する半導体ウェハ用カップ式超小型装置「RAD-Plater(ラドプレーター)」を開発し、7月15日から販売することを発表した。

「RAD-Plater」は、2~8インチの半導体ウェハー製造用の超小型めっき装置で、幅800mm、奥行700mmと量産機と比較して小さく、一般的な設備の100ボルト電圧、圧縮空気下のみで運用が可能だという。

対応めっき液は金、銀、パラジウム、銅、ニッケルなど

の他、合金、鉛フリータイプなど幅広く、めっき液量はディップ式の約半分である10リットル以下に抑え、実験コストも低減している。

現在、量産めっきラインを持つメーカーの開発部門の多くは、めっき液の実験を装置メーカーなどに委託して評価してきたが、この「RAD-Plater」により自社で実験が行えることで開発時間の大変な短縮が見込める。

同社は2017年までに年間5億円の「RAD-Plater」売り上げを目指す。

橋本健一郎氏の6月アルミレポートおよび7月の見通し

予測レンジ

LME	現物後場買い 1550~1700ドル
スクラップ	-5から-10円(前月最終価格より)
為替	121~125円(一か月間)

↑ 弱い

↑ 弱い

↑ 円高



橋本アルミ(株) 橋本健一郎氏

後半は、5月の米中古住宅販売件数が前月比5.1%増加の535万件になったことを好感し上昇。米週間新規失業保険申請件数は27.1万件に増加、予想は27.3万件

5月の米個人消費は前月比0.9%増加、予想の0.7%増を上回るなどのプラス材料もあったが、ギリシャがIMFに6月30日が期限となっている17億ドル(2100億円)の返済が不履行になった事、国民投票で緊縮財政にNOを突きつけた結果となった事によりデフォルトが現実味を帯びてきたことからDOWN

7月1日現在LME(現物後場) 1648ドルと後半スタート価格から58.5ドルDOWNしてのスタートとなつた。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TT S)

■概況

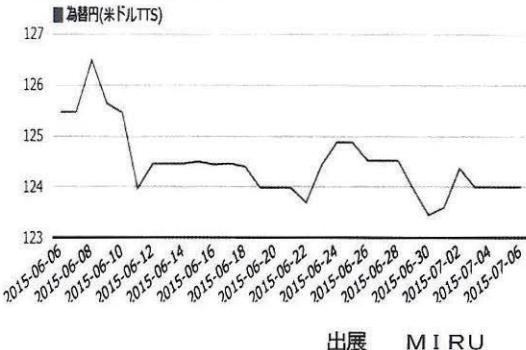
前半は、10の日本のGDP2次速報値は前期比1%増、年率換算3.9%増

朝方発表の5月の西欧圏の自動車販売は前年同月比0.2%増の106万台

などのプラス材料もあったが、中国人民銀行エコノミストが今年の中国成長目標を7%に下方修正したこと、5月の中国自動車販売台数は前年比0.4%減の190万台、2ヶ月連続の減少した事、5月の中国貿易黒字は595.9億ドル、予想は449.5億ドル。輸出は前年比2.5%減、輸入は17.6%減、予想は10.7%減だったことなどのマイナス材料を受けてDOWN

6月15日時点 1703.50ドル(現物後場買い)と月初価格から3ドルDOWNの前半締めとなつた。

125.12 → 123・39(円)

**◆自動車生産台数**

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-16.6%の64万5427台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比+5.4%の27万9375台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+5.8%の7万1720戸であった。

◆ 貿易指標**輸出**

財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前年比-3.4%の143t、2次合金が

-6.5%の1298t、前月比でスクラップが-16.6%の1万339t アルミ缶が-14.1%の2937t。

15年1月から スクラップがスクラップとアルミ缶に仕分けされたため前年比との比較ができず前月比にしております。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-5.1%の16万3906t

日本アルミニウム合金協会発表の アルミニウム2次合金同合金地金等生産実績は

前年比-13.5%の5万8493であった。

■概況**【自動車生産】**

5月の四輪車生産台数は645,427台で、前年同月の774,141台に比べて128,714台・16.6%の減少となり、1カ月連続で前年同月を下回った。

5月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。

乗用車 - 539,173台で115,859台・17.7%の減少となり、1カ月連続のマイナス。このうち普通車は333,173台で28,959台・8.0%の減少、小型四輪車は102,716台で37,058台・26.5%の減少、軽四輪車は103,284台で49,842台・32.5%の減少。

トラック - 95,446台で13,399台・12.3%の減少となり、4カ月ぶりのマイナス。このうち普通車は43,214台で4,179台・8.8%の減少、小型四輪車は24,152台で2,392台・9.0%の減少。軽四輪車は28,080台で6,828台・19.6%の減少。

バス - 10,808台で544台・5.3%の増加となり、3カ月連続プラス。このうち大型は848台で278台・48.8%の増加、小型は9,960台で266台・2.7%の増加。

5月の国内需要は335,644台で、前年同月比7.6%の減少であった。

(うち乗用車279,419台で前年同月比8.2%の減少、トラック55,585台で同5.0%の減少、バス640台で同24.8%の増加。)

輸出は前年同月比10.0%の減少。(実績)

また、1~5月の生産累計は3,838,864台で、前年同期の4,208,861台に比べ369,997台・8.8%の減少であった。

このうち乗用車は3,227,063台で365,280台・前年同期比10.2%の減少、トラックは554,452台で5,602台・同1.0%の減少、バスは57,349台で885台・同1.6%の増加であった。

【自動車販売】

6月の国内自動車販売台数(軽は除く)は27万9375で前年比+5.4%、3カ月連続プラス。年累計では-92.1%内、乗用車+4.6%、貨物+9.9%、バス+19.9%。

【住宅着工数】

平成27年5月の住宅着工戸数は71,720戸で、前年同月比で5.8%増となった。また、季節調整済年率換算値では91,1万戸(前月比0.2%減)となった。

・ 住宅着工の動向については、昨年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあって、このところ前年同月比で減少が続いているが、足下では前年同月比で3カ月連続の増加となっている。

・ 住宅着工については、今般の経済対策等を踏まえ、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある
(持家)

前年同月比では16か月ぶりの増加(前年同月比1.1%増、季節調整値の前月比では4.8%減)。

(貸家)

前年同月比では2か月ぶりの増加(前年同月比2.8%増、季節調整値の前月比では0.4%減)。

(分譲住宅)

前年同月比では2か月連続の増加(前年同月比18.1%増、季節調整値の前月比では8.0%増)。

(分譲マンション)

前年同月比では2か月連続の増加(前年同月比54.9%増)。

(分譲一戸建住宅)

前年同月比では13か月連続の減少(前年同月比8.8%減)。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比-9.3%の6万1768t。7カ月連続マイナス、出荷は-8.9%の6万3540t 14カ月連続マイナス。

内 出荷先 鋳物 -4.3% ダイカスト -11.4% 板 -1.5% 押出 -7.3% 鉄鋼 -15.8%

合金地金メーカー -9.3%

【アルミ圧延・押出品生産数】 -5.1% 3カ月連続マ

板類

(1) 缶材 37,937t(4.4%) :

ビール系飲料は2%減となったものの、ボトル缶の好調や一部コーヒー缶のアルミ化による需要増により、2ヶ月連続でプラス。

(2) 自動車 11,752t(▲3.1%) : 国内乗用車生産台数は減少しているが(4月の生産台数:592千台、前年同月比:▲9.2%)、アルミバネル材を採用する主に高級乗用車等の輸出は増加傾向。6ヶ月ぶりにマイナスとなったのは、稼働日が前年より2日少なかった影響によるものと推測。

(3) 輸出 19,241t (11.8%)

海外関連工場への素条輸出の増加や円安による輸出環境の好転等により、14ヶ月連続でプラス。

押出類

(1) 建設: 33,649t (▲ 15.2%) 4月の新設住宅着工戸数はプラスとなったが微増であり(4月の着工戸数: 75,617戸、前年同月比: +0.4%)、建設全体としては11ヶ月連続でマイナス。内・外装材等の大幅マイナス(▲19.2%)は、前年が大雪の影響によるカーポート向け需要増で高かったことによるもの。

(2) 自動車 9,570t (▲ 13.3%) 国内乗用車生産台数と連動し、8ヶ月連続でマイナス。

【見通し】

- 自動車は生産が前月に続き大幅減少の一16.6%。一方、6月の国内販売台数が前年比+5.4%。生産が11ヶ月連続マイナスの中、販売が3ヶ月連続プラス、ただ輸出が-10%。この販売増の流れが6月も続き生産増につながるか今後の動向に期待。

- 新設住宅着工戸数は前年比+5.8%。季節調整済年率換算値で91.1万戸(前月比-0.2%)。前年比で3ヶ月連続プラス。季節調整換算では2ヶ月連続マイナスに転じた。住宅着工は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響が薄れており足下では前年同月比で3ヶ月連続の増加となっている。今般の経済対策等を踏まえ、今後の動向に注目

・アルミニ二次合金

新設住宅着工件数は3ヶ月連続でプラス、自動車販売も3ヶ月連続プラスだったが要の自動車生産が-17%と大幅悪化販売増が悪化を喰い止めることができるか注視する必要がある。

・アルミ圧延・押出品生産数

【圧延品】

ビール系飲料は2%減となったものの、ボトル缶の好調や一部コーヒー缶のアルミ化による需要増により、2ヶ月連続でプラス。

海外関連工場への素条輸出の増加や円安による輸出環境の好転等により、14ヶ月連続でプラス。

全体としては3ヶ月連続で減少しており 今後の動向に注目

【押出】

故銅市況 建値は下げ止まるも、荷動きは静か 市中では折合難が続く

15日の故銅市況は、1万円程度上がるかと予想される声もあった中で、海外相場が反落し建値は据え置かれ、荷動きも静かな状況となっている。

同日入電の海外相場は、前日にギリシャ債務問題において、同国と欧州連合(EU)が協議で大筋合意したことが好感され、全面高となつたが、この日は一転、錫を除くほとんどの非鉄は値を下げた。LME銅相場はセツルメントで前日比103.00ドル安の5502.50ドルで反落した。ギリシャ問題への懸念が依然として残っていることや、世界最大の銅消費国である中国の経済に対する不安が根強いことも要因として挙げられる。また需要が減少する中で、供給過剰への懸念も相場を圧迫していると見られる。この日は、銅を含め4種類の非鉄が在庫を増やしており、鉛は前日比1万9625トン増の22万600トンで

5月の住宅着工はプラスだったが、建設全体としては11ヶ月連続でマイナス。

自動車生産もマイナスだったことから今後も調整が続くのではないか。

- 輸出 2円程度円高が続いている事やLMEアルミの大幅下落から 地金 2次合金、大幅減。 アルミ缶は国内玉の高値貢筋が治まつたころから輸出増。

- 輸入 LMEアルミの下落を受けて地金はマイナス、スクラップは円高を受けて減少。

上記を踏まえアルミスクラップ需給は供給過剰との見解

【価格・為替予想】

今月は、中国の金融政策及び景気対策、引き続きギリシャ債務問題に左右される。

中国の金融および景気対策に関しては当局は金融緩和及び利下げなどの政策を行っているものの現状にそれが景気に寄与しているとは考えにくい。故にいわゆる大規模な景気対策が必要だが、現政権ではスムーズの行う可能性は低いのではないか?

ギリシャの債務問題に関しては、IMFへの借金が6月30日の時点で返済されることはなかった。EUからの融資を受けるための国民投票でもNOv突きつけておりデフォルトする可能性は高い。IMFが7月14日に催促状を送付7月28日に返済がなければ正式にデフォルトされる予定。それらを踏まえた7月の銅価格は、中国当局が景気対策に関する何かしらの表明をし、ギリシャがIMFへの返済をした場合、6月高値の1700ドルを予測。いずれかの場合は1650ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかつた場合もう一段安値の1,550ドル。

為替は、米FRBの利上げについて年内説が台頭するもその後は仇やかなものになるとの認識が台頭、好調な米経済指標やギリシャ債務問題での一段のユーロ安から6月中はドル高円高傾向がづくのではないか?

今後、上値はギリシャが7月28日に向かって正式にデフォルトの道を歩んだ場合121円台を予測。下値はギリシャの債務返済と米経済指標の好調が進み利上げ観測が出た場合は125円台。

メカースクラップ購入価格は-5から-10円と予測している

大幅に増加した。NY銅相場(9月限)は、前日比0.95セント安の253.50セントとなり、反落した。

為替動向は、14日のニューヨーク外為市場では、米小売売上高が市場の予想を下回ったことで、同国の利上げ見通しが不透明になったことなどを受け、ドルが円やユーロに対して弱い展開となった。15日午前の東京外為市場では、円相場は4営業日ぶりに反発して始まった。米経済指標が低調なことを受けて、円買い・ドル売りが優勢となり、東京為替TTTSは、前日比0.31円高・ドル安の124.39円となった。

なおNYカーブはLME先物比26.50ドル高。海外相場とTTTSから計算した国内採算値は、前日比1万5,000円安の72万4,000円となり、この日の国内電気銅建値は73万円に据え置かれた。